

1 社会科で目指す生徒の姿

社会の諸問題に対して、主体的に参画しようとする生徒

2 社会科の研究テーマ

社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高める学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

小単元「北海道地方・九州地方の特色を調べよう」(令和7年4月・2年)では、自然環境を中核的な事象とし、北海道・九州地方の地域的特色を捉える学習を構想した。ここでは、両地方の自然環境に対する人々の生活について、必要な情報を選択・整理して「私の風土記」にまとめ、長野県と比較したり関連付けたりする展開を位置付けた。〇生は、小単元の学習問題「北海道地方や九州地方の人々は、厳しい自然環境の中でどのような工夫をしているのだろうか」や小単元の学習課題「産業や生活に着目して長野県と比較して考えよう」から、「私の風土記」にまとめた情報を基に、「北海道地方では雪、九州地方では台風への対策をしており、どちらも厳しい自然環境を乗り越えたり、活用したりしている。」と気付いた。さらに、〇生は、両地方の特色と長野県を比較して、「長野県でも自然環境を観光や農業などの産業に活用している。」と両地方と、自らが住む長野県との関わりを見いだしながら地域的特色を捉えることができた。このような〇生の姿は、両地方に見られる課題を捉え、自らの生活との関わりを見いだしていることから、社会科の研究テーマの具現につながる可能性が見えてきた。さらに、他者に自らの考えを提案する活動を行うことによって、社会に見られる課題の解決に向けて、自ら働きかける力を高めることにつながり、研究テーマを具現することができると考えた。

そこで、地理的分野のまとめとして行う、単元「魅力ある故郷～見つけよう！わがまちのシーズとニーズ～」では、自ら中核的な事象を設定し、長野市の特色を捉え、地域の課題の解決方法を構想する学習を構想する。ここでは、自分の住む地域の人々の生活の工夫について、調査を基に必要な情報を選択・整理して「我がまちの風土記」にまとめながら、日本の諸地域の特色と比較したり関連付けたりして、よりよい地域の在り方を地域おこし協力隊の方へ提案する展開を位置付ける。地域おこし協力隊は、地域課題の解決や活性化のために他地域から移住して活動を進めている制度である。生徒は、地域おこし協力隊の方から長野市の現状や課題を聞くことで、自らが暮らす地域の在り方について切実感をもち、自分事として捉えるようになるだろう。さらに、生徒は、これまでに日本の諸地域の単元で学習してきた人々の生活への工夫と、自分たちが暮らす地域について追究した事象を比較することで、地域の特色や課題を捉えていくだろう。そして、根拠をもって自らが暮らす地域の課題への解決方法を構想することができよう。

以上のような学習を積み重ねていくことで、社会科の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができると考えた。

4 単元名・学年

「魅力ある故郷～見つけよう！わがまちのシーズとニーズ～」・2年

5 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

- (1) GISでのデータ収集や地域おこし協力隊の方の話から、長野市の特色や課題解決のための取組を理解するとともに、課題の解決策について根拠に基づいて、地域おこし協力隊の方に意見を述べるができる。【C(4)ア(ア)】
- (2) 長野市の地理的な課題の解決について、人口、産業、交通などの視点や、地域に住んでいる人、通勤・通学をしている人などの立場から考察、構想し、提案することができる。【C(4)イ(ア)】

- (3) 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 GISでのデータ収集や地域おこし協力隊の方の話から、長野市の特色や課題解決のための取組を理解している。 技 課題の解決策について根拠に基づいて、地域おこし協力隊の方に意見を述べている。	思 長野市の地理的な課題の解決について、人口、産業、交通などの視点や、地域に住んでいる人、通勤・通学をしている人などの立場から考察、構想し、提案している。	態 地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

7 本単元までの学び（地理的分野「日本の諸地域」の扱い）※扱う順番で記載

地域名	中核的事象	地域的特色	地域の課題
北海道・九州	自然環境	自然環境を観光や農業などの産業に活用	寒さや雪が厳しい自然環境・多発する自然災害
東北	生活・文化	祭りなどの文化を観光資源として活用・伝統的工芸品の海外輸出	伝統的な文化・産業の後継者不足
中国・四国	交通や通信	交通網の発展による産業の輸送や人の行き来の活性化	交通網の発展による山間部・離島の過疎化
関東	人口や都市・村落	政治・経済・文化の中心である東京の周辺に広がる東京大都市圏	交通網の発展による都市の過密問題
近畿	産業	歴史的文化遺産や交通・通信を活用した観光産業	観光と歴史的景観の両立（オーバーツーリズム）
中部	産業	地域の自然環境を生かした産業	地域に偏る産業と地域間の格差

8 単元展開 地域の課題を多面的・多角的に考察し、解決方法を構想する学習

全6時間扱い 本時は第4時

段階	◆ <u>ねらい</u> ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	◆単元の学習の見通しをもつ ・地域おこし協力隊の方の声を紹介し、単元の学習問題「私の住む地域をよりよくするための解決策を、地域おこし協力隊の方に提案しよう。」を設定する。 ・生徒が住んでいる地域を基に、調査する範囲を提示し、同じ地域に住む生徒同士が、日ごろ実感している地域の特色や課題、地域への願いについて共有する場を設ける。 ・自分の住む地域の課題を知るために必要な情報は何か問い掛け、単元の学習課題「地域の特色を調べて『我がまちの風土記』にまとめ、他地域の事例と比較・関連付けて、解決策を考えよう。」を据える。	● 態	1
展開	◆地域の課題とその要因を調査し、解決策を構想する ・自らが住む地域に見られる特色とその課題について、GIS（地域見える化「ジオグラフ」）等の使用により、人口、産業、交通等の面から「我がまちの風土記」にまとめるように促す。 ・地域おこし協力隊の方の声や、自らが住む地域への願いを再確認することを促し、これまでの学習を基に、他地域と関連付けたり比較したりしながら、根拠を明確にして自分が住む地域に見られる特色やその課題を考察する場を設ける。 本時案参照	○ 知 ○ 思	2 ～ 4 (本時は第4時)
終末	◆構想した解決策を地域おこし協力隊の方に提案する ・提案内容を決め出し、グループごとの提案を地域おこし協力隊の方に発表し、私（たち）に何ができるのかについて考察する場を設ける。 ・本単元の学習を、3年生の公民的分野や、総合的な学習の時間につなげていくことを確認し、単元のまとめを行う場を設ける。	○ 技 ○ 態	5 ～ 6

9 本時案

(1) 主眼

※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

私の住む地域をよりよくするための解決策を考える場面で、「我がまちの風土記」にまとめたことを基に、事象同士や、他地域との共通点に着目して、地域の解決策を考えることを通して、地域の課題とその要因を複数の視点や立場から考察し、解決策を構想することができる。【C(4)イ(ア)】

(2) 前時までに考察した地域の特色と課題（長野市北部の例）

人口：少子高齢化が進んでおり、今後さらに進行することが予想される。

産業：自然環境を生かして、農作物の栽培や観光業に力を入れているが、農家は減少している。外国人観光客の増加により、スキー場に行くための鉄道利用は増加している。

交通：以前と比べて大きな幹線道路が開通したが、鉄道路線やバス路線は廃止されたものがある。

(3) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応			教師の指導・助言 評価	時間	
導入	単元の学習問題：私の住む地域をよりよくするための解決策を、地域おこし協力隊の方に提案しよう。					5分	
	1 前時を振り返り、学習課題を据える。	ア 私の暮らす長野市北部の地域は、新しい道路が整備されたが、駅前の百貨店が閉店するなど、生活に変化が見られた。これは、中国・四国地方と共通している。マンション建設により住む人が増えたので、活気あるまちにするために友と解決策を考えたい。		・アのような他地域との共通点や生徒の願いを共有し、学習課題を据える。			
	学習課題：「我がまちの風土記」にまとめたことを基に、事象同士や、他地域との共通点に着目して、友と地域の解決策を考えよう。						
展開	2 前時までの個人の考察を、着目した視点ごとのグループで共有する。	【北部-人口】 ○北部の駅前にはマンションが増え、人口が増加している。 ○しかし、全体的に見ると少子高齢化が進んでおり、今後さらに進んでいくことが分かる。	【北部-産業】 ○アップルラインは観光農園が多く、山地にはスキー場があるが数は減っている。 ○これは、自然環境を農業や観光業に活用しており、外国人観光客が増えている。	【北部-交通】 ○以前と比べて、大きな幹線道路が開通したことがわかった。でもバス路線は廃止されたよ。 ○鉄道は学生や外国人観光客の利用が多い。	・区分された地域の中で、着目した視点ごとに分かれたグループを編成する。 ・「我がまちの風土記」を基に個人で考察した内容をグループ内で共有するように声掛けをする。 ・イの反応から、他の事象との共通点に着目して解決策を検討するように促す。 ・検討が進まないグループは、調べた内容を比較したり関連付けたりして話し合うように促す。	10分	
	3 共有したことを基に、地域にどのような提案ができそうか、異なる事象を選んだ友と話し合う。	イ 他の事象とも関わりがあると思ったから、同じ地域の他の事象について考察した友の意見を聞きたい。				地域の課題とその要因を複数の視点や立場から考察し、解決策を構想している。(ワークシート、話し合い)	25分
		○道路や鉄道など交通の便がよいため、北部の駅前にもマンションが増えてきた。高齢者も増えているが、外国人観光客も増えている。【人口、産業、交通】 ○関東地方の学習をした際に、群馬県ではその町に暮らす外国人と交流するイベントを行っていることを知った。同様に地域の方々や外国人が集えるイベントを開催するのはどうか。また、どのようなイベントにすればよいのだろう。【他地域の事例】 ○東北地方は文化を継承していた。北部でも、高齢者の方々が地域や長野県の文化について、外国人に伝えるイベントを行うのはどうだろうか。【提案】 ○もしかしたら外国語を話せるボランティアの人が必要かもしれない。また、どのようにイベントを周知するのか、文化を教えてくれる高齢者の方々を集めるのかという点など、検討が必要だ。【新たな課題】					
終末	4 本時の学習を振り返る。	ウ 同じ地域に暮らす友と話してみると、共感できる部分が沢山あった。群馬県の事例を基に、地域住民と外国人のどちらにも住みやすいまちになればよいと思う。ただ、まだ検討することがあるので、次回は地域おこし協力隊の方に向けて、よりよい提案を考えたい。			・次時で具体的な提案を検討し、地域おこし協力隊の方に紹介することを確認する。	10分	